

# 人間が人間らしく生きるために…

## 「お節介」 いっぱいの まさか共子さん

困った人には思いやりいっぱい  
の  
共産党員の家に生まれる

まさか共子さんは共産党員  
の両親の長女として、東彼・  
川棚町で生まれました（19  
49年・昭和24年）。父親の成  
鈺の仕事の関係で松浦市今福  
町に引っ越し、小学校も中学  
校も今福町。



狭い家にたくさん  
の労働者が集まり、  
暮らしたことや平和  
なことなど、議論が  
絶えない毎日でした。

ある日突然、父親から「今  
日から姉妹で一つの布団に寝  
なさい」と言われビックリ。  
質屋に布団を入れたのかと思  
いきや、よく聞いてみると炭  
鉱が閉山し、炭鉱住宅の人が  
雨で布団を濡らしてしまった  
ので、布団をあげたとのこと  
でした。

### 「看護師めざし東京へ」

1964年（昭和39年）、  
「手に職を持った方がよい」  
との父の勧めもあって、看護

師めざして東京へ。

東京ではすべてが何もかも  
初めて…看護の勉強、うた  
ごえサークル、政治



活動などなど。中央  
合唱団に入り歌の勉  
強もいっぱいしまし  
た（これが今のまさ  
かさんの大きな声の

原点）。工場まで出向きつた  
ごえの指導をしたり、代々木  
公園の舞台で歌ったりと、青  
春時代を満喫しました。  
当時まだ制度がなかった  
「准看にも奨学金を」との要  
求運動にとりくみ、その運動  
が実って奨学金で准看を卒業  
しました。

### 「看護師から日本共産党の議員へ」

東京から松浦に戻ったまさ  
かさん。佐世保市総合病院に

務めたあと松浦市民病院で働  
きました。そこで院長先生か  
らの勧めもあり、武雄の看護  
学校を卒業しました（198  
2年）。



市田書記局長と

「院長先生がよく私に言っ  
てくれました。『上医は人の  
声を聞き、国を直す。中医  
は顔色を見て、人を直す。下  
医は脈をとり、病を直す』と。  
これは私の今の活動の原点な  
んです」というまさかさん。

1989年、江迎町議選挙

に初めて立候補し、1993  
年の2度目の選挙で初当選。  
江迎町議となつてから議会活  
動も町の行事も、いつも町民  
みなさんといっしょに頑張り  
ました。  
議会広報係を12年間つとめ、  
議会広報に賛成の意見も反対  
の意見も平等に載せるように  
なりました。また江迎の議会  
広報は全国第3位にもなりま  
した。

### 「私は「お節介」なの——生活相談は最後まで

暮らし、福祉、介護の相談か  
らサフ金相談まで、まさかさ  
んには今もいっぴいの相談が  
寄せられています。一人暮らし  
のお年寄りには引っ越しか  
ら、お葬式、納骨までお世話

をすることも。

「私の福祉や介護の専門知  
識で、命を支える橋渡しをし  
たいんです。その人が人間ら  
しく生きて欲しいんです」と  
いうまさかさん。「私ってお

節介なんです。見て見ぬふり  
ができないんです。だから言  
いたいことをスバズバ言っ  
ます」でもこれが時々言い過  
ぎることも」と、今度は佐世  
保市議会で頑張ります。